

# 大戦期

## 欧米の音楽への新たなまなざし

### 文化・社会史としての 音楽研究の可能性

音楽家とその作品の歴史的研究を長らく中心に据えてきた西洋の音楽学だが、20世紀後半には音楽社会学sociomusicologyが注目され始める。これは、政治・軍事・経済の歴史を主軸としてきた西洋史学が「文化史」の重要性を訴え始めた時期とも重なっていた。こうした流れを受け継いで、現在では音楽学の一領域としての文化史・社会史が定着したといえるだろう。しかしこれまでに、研究方法の可能性や、諸研究をいかに関連付けるかなどの、研究基盤に関する議論はあまりなされてこなかったのではなからうか。

本ラウンドテーブルでは、同じ対象時期(第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけて：1914~1944年)のもとで異なる地域と異なる研究方法を採用している二冊の研究成果を例に、文化史としての音楽の歴史(物語)のつむぎ方の可能性について考える。

登壇者  
田崎直美  
大田美佐子

コメンテーター  
渡辺裕  
椎名亮輔

日時  
2022年12月4日(日)  
14:00~16:00

場所  
京都女子大学  
図書館交流の床ホール

タイムテーブル  
14:00~14:55 登壇者報告  
15:10~15:40 コメンテーターより  
15:40~16:00 質疑応答・討論

#### アクセス

市バス206系統・208系統または100系統で約10分、「東山七条」で下車し、東へ徒歩約5分。  
※なだらかな坂を上り、京都女子中学校・高等学校を過ぎた先に、左側にガラス張りの建物が見えます。こちらが図書館です。十字路を左折して、ご入場ください。

#### 担当・お問い合わせ

田崎直美 tazaki@kyoto-wu.ac.jp (西日本支部 京都女子大学)

大田美佐子 misaohata@kobe-u.ac.jp (西日本支部 神戸大学大学院)



# PROFILE

登壇者

田崎 直美

Tazaki Naomi

現在、京都女子大学准教授。専門は音楽学。  
近代フランスの音楽史、音楽社会学、文化政策史の研究をおこなう。2001年、お茶の水女子大学大学院にて博士（人文科学）取得。2002～05年、日本学術振興会特別研究員（PD）。財団法人花王芸術・科学財団第11回芸術文化助成（美術・音楽の研究部門）、第2回スミセイ女性研究者支援を獲得。著書（共著）に『音楽教育実践学事典』（音楽之友社、2017）、上垣豊（編著）『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2020。「歴史の扉14 フランスの音楽文化」を寄稿）など。

コメンテーター

渡辺 裕

Watanabe Hiroshi

東京大学名誉教授。専門分野は聴覚文化論・音楽社会史。83年、東京大学大学院人文科学研究科博士課程（美学芸術学）単位取得退学。大阪大学助教授、東京大学大学院人文社会系研究科教授（美学芸術学、文化資源学）、東京音楽大学教授を歴任。著書に『聴衆の誕生』『西洋音楽演奏史論序説』『日本文化モダン・ラプソディ』『サウンドとメディアの文化資源学』『感性文化論』（以上、春秋社）、『歌う国民』（中央公論新社）など。1989年「聴衆の誕生—ポストモダン時代の音楽文化」でサントリー学芸賞、2011年『歌う国民』で芸術選奨文部科学大臣賞受賞など多数。2013年春、紫綬褒章受章。

参考図書

田崎直美

『抵抗と適応のポリトナリテ  
- ナチス占領下のフランス音楽』  
アルテスパブリッシング

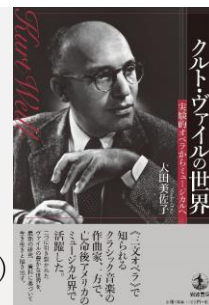
(2022年2月刊行)



大田美佐子

『クルト・ヴァイルの世界  
- 実験的オペラからミュージカルへ』  
岩波書店

(2022年3月刊行)



コメンテーター

椎名 亮輔

Shina Ryosuke

同志社女子大学教授。専門は音楽美学・音楽学。東京大学大学院博士課程満期退学。ニース大学文学部博士課程修了。パリ第8大学客員教授、バルセロナ自治大学芸術学部招聘教授など。ピアニストとしても活動。著書に『音楽的時間の変容』（現代思潮新社）、『狂気の西洋音楽史』（岩波書店）、『デオダ・ド・セヴラック』（アルテスパブリッシング、第21回吉田秀和賞受賞）、『梨の形をした30の言葉 サティ箴言集』（アルテスパブリッシング）、主要訳書に、マイケル・ナイマン『実験音楽』（水声社）、ジャクリーヌ・コー『リュック・フェラーリとほとんど何もない』（現代思潮新社）などがある。

登壇者

大田 美佐子

Ohta Misako

現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授。専門は音楽文化史・音楽美学。東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。学習院大学大学院人文科学研究科ドイツ文学専攻博士前期課程修了。ウィーン大学大学院人文科学科博士課程修了。ハーバード大学音楽学部客員研究員など。著書に、『世界音楽の本』（共著、岩波書店、2007年）、「ブレヒトと日本の作曲家たち——林光と萩京子のブレヒト・ソング」（『ブレヒト詩とソング』市川明編所収、花伝社、2008年）、「US Concert Music and Cultural Reorientation during the Occupation of Japan」（Carol J. Oja との共著、Sounding Together 所収、University of Michigan Press、2021）など。